

東桜コンピテンシー「①ビジョン」について ～その9～



①「ビジョン」

数年～数十年単位の中長期的な目標として、望ましい社会や理想とする自分の姿を思い描く力。

3月2日から継続していた臨時休業ですが、登校日を増やししながら、5月18日（月）以降、段階的に学校を再開することになりました。このままコロナの収束傾向が進んでいくことを願いたいものです。

そのような中、インターハイ（全国高等学校総合体育大会）や全中（全国中学校体育大会）などが中止となるなど、中高生の学校生活に対しても、さまざまな面でコロナの影響が大きく影を落とし始めています。

With コロナという言葉が使われているように、コロナの影響は長期化することになりそうです。このままだと、文化祭やクラスマッチ、体育祭などもこれまでのような形で開催することは難しくなるかもしれません。

いろいろなことが中止となることも、現状では致し方ない面があるでしょう。その一方で、“あったはずのものがただ無くなる”でいいのだろうか、という思いもあります。

With コロナの中でもできることを模索しなくていいのでしょうか？

それは、何なのか？ 正に「未来創造プロジェクト」ですね。With コロナの中で、自分たちの学校生活をどのように創りあげていくのか、是非考えてほしいと思います。

(i) 「シン・ニホン」にみるこれまでとこれから

さて、今回は、今年の2月に出版された安宅和人（あたくあかずと）さんの「シン・ニホン」という本をとりあげます。400ページ以上もある本ですから、もちろんそのすべてを網羅できるわけではありません。

今回は、その中の極一部について述べます。

安宅さんは、産業革命以来、3つのフェーズ（局面）があったと述べています。

第1のフェーズ（1750年～）は、新しい技術やエネルギーが出てきた時代。100年ほど続いたこの時代に、電気の発見や蒸気機関などが生まれました。

第2のフェーズ（1900年～）は、新しいエネルギーが実用性を持つようになり、さまざまな世界に実装された段階。エンジンやモーターなども小さくなり、クルマや家電などが続々と生まれました。

第3のフェーズ（1960年～）は、この新しく生まれてきた機械や産業がつながり合って、航空システム、通信技術のようなより複雑な新しいシステムが生まれた時代です。

第1から第3フェーズの時代、日本に視点を移すと・・・

フェーズ1の時代。イギリスのエンジニアであるジェームズ・ワット（James Watt）が、新方式の蒸気機関を開発したのは1769年です。日本では、1775年（安永4年）に杉田玄白が「解体新書」を刊行しました。つまり、鎖国真っ最中の江戸時代です。

どう考えても、フェーズ1では、日本は完全に出遅れています。



それでは、明治以降の第2、第3のフェーズではどうでしょうか。日本は、文明開化、富国強兵などの言葉にあるように、一気に西洋文明の吸収と産業化にいそしみました。

その後、二度の大戦を経て、1960年以降のフェーズ3では、自動車、家電、カメラ、その他の新しいモノづくりで躍進を遂げました。

1979年にウォークマン、1983年にファミコンが発売されましたが、正に私の青春時代。生徒会誌「東桜」でも述べましたが、平成の初めのころ、日本は電子立国と呼ばれており、半導体産業では世界1のシェアを誇っていました。日本の輸出が好調で、米国から圧力をかけられる中、米国が日本製のパソコンやテレビなどに異例の100%の制裁関税を賦課するということもありました。

つまり、フェーズ2、3では日本は勝者でした。

日本の勝ち筋



【新刊】『シン・ニホン』を解説 (明快キングさんのYouTube) より

さて、現代に目を移すとどうでしょうか。AI×ビックデータによる歴史的な革新期である現代。

GAFに象徴されるようなITのプラットフォームの構築において、完全に日本は出遅れました。右図でもわかるように、この10年ほどでも、いかにIT関連産業が成長しているのかがわかります。

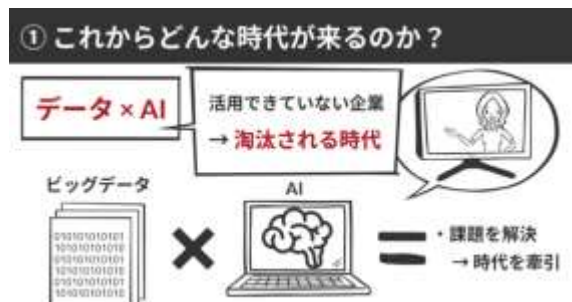
2007年	時価総額ランキング	2019年
1. エクソンモービル		1. Microsoft
2. ペトロチャイナ		2. Amazon
3. ゼネラルエレクトリック		3. Apple
4. チャイナモバイル		4. Google (Alphabet)
5. 中国工商銀行		5. Facebook
6. Microsoft		6. バークシャー・ハサウェイ
7. ガスプロム		7. Tencent
8. ロイヤル・ダッチ・シェル		8. Alibaba
9. 中国石油化工集団		9. ジョンソン&ジョンソン
10. 中国建設銀行		10. JPモルガン

フェーズ1での出遅れ・・・先に述べた産業革命以来のフェーズ1に似ていますね。

ものすごいスピードで時代が変化している現代では、フェーズ1は終わりに近づいていると安宅さんは言っています。

それでは、これからの時代、すなわちフェーズ2、3はどのように変わっていくのでしょうか。

安宅さんによれば、フェーズ1で生み出された技術があらゆる分野、空間、機能に広まっていき、いろいろなものが見えないところで最適化されるとのことです。



「21分で解説」シン・ニホン by 安宅和人 | 日本に残された唯一の道 (サラタメさん【サラリーマン YouTuber】) より

すでに、AIやビックデータを駆使したさまざまなイノベーションが具体的に世の中に出てきています。

いま、AI×ビックデータの活用を進めていくためには、データサイエンスに関する知識・理解も必要でしょう。

それとともに大切なのは、想像力、創造力です。安宅さんはこれを「妄想力」だと言っています。そして、日本人は、たとえば、ドラえものの「どこでもドア」「ほんやくコンニャク」など、さまざまなコンテンツを通じて、その妄想力を幼いころから養っていると・・・。

一方で、今回のCOVID-19が、かつての黒船のような影響をもたらし、フェーズ2へ向かう勢いを後押しするかもしれません。

今回のCOVID-19についても、かつては半年や1年かかっていたであろうウイルスのゲノム解析が1日で終わり、スパコン（スーパーコンピュータ）や量子コンピュータなどを活用してワクチンの開発などが進められています。

AI×ビックデータを駆使したイノベーションが、新たな世界を創りあげていくであろうこれからの時代。今後のフェーズ2、3はどのように展開されていくのでしょうか。人々に幸福をもたらし、たとえば、SDGsの課題解決にも貢献していくのではないかという期待感を、いろいろな面で実感として感じる時代がきています。

(ii) ビジョンから未来をつくる — 「風の谷」という希望

「ブレードランナー」と「風の谷」・・・「ブレードランナー」は、1982年公開のSF映画で描かれた、人口過密の大都市以外が捨てられ、人が住めない土地になっているという世界を象徴する言葉です。「風の谷」は、そう宮崎駿監督の「風の谷のナウシカ」で描かれたあの風の谷です。

詳細は省きますが、私たちは、これからどのような世界を創り上げようとするのでしょうか。

いま、私たちは、3密を防ぐ、すなわち、「密閉した空間⇒開放した空間」、「高密度での活動⇒疎での活動」を心がけて生活しています。これを、安宅さんは「開疎化」と表現しています。COVID-19への対応が、これまでの生活環境を基盤から見直す機会になるかもしれません。

豊かな生活とは何なのか？ 幸せとは何なのか？

「地方の時代」を、さらに真剣に考える必要がきているのではないのでしょうか。

(引用・参考文献)

「シン・ニホン AI×データ時代における日本の再生と人材育成」(安宅和人著、株式会社ニューピックス)

令和2年(2020年)5月